

# 札幌市資料館 を視察して

岩国市議会議員 渡 吉弘

## 1 はじめに

岩国市には徴古館や学校資料館など歴史的な建物や貴重な資料が存在する。

ご承知のように、徴古館は昭和 20 年に建設され、郷土の歴史についての貴重な資料などを収集・保管・研究する建物である。

また学校資料館も 1871 年(明治 4 年)に 13 代岩国旧藩主吉川経健によって建てられた学校跡である。3 階に洋風の鐘撞き堂を配した和洋折衷の建築洋式で、館内には江戸時代から現代までの教科書や「日本エジソン」と呼ばれる藤岡市助先生の遺品も展示されている。

しかし、岩国には今のところ最大の名所である「錦帯橋」に関する資料を保存管理・展示する資料館はない。去る 9 月定例会で「錦帯橋資料館(仮称)」に関する調査費の予算 480 万円が全額修正削除された。

他市では、このような貴重な資料をどのように扱い、どのようにして市民に公開しているか。また、資料館を建設したのち、どのように活用しているかを調査するため、他の調査で立ち寄った札幌で、「札幌市資料館」を視察させて頂いた。以下がその報告である。



岩国市 徴古館(横山)

## 2 札幌市資料館の歴史と概要について



札幌資料館

札幌市の中心部を東西に走り、市民の憩いの場所として知られる大通公園は、明治時代に火防線として造られた公園で幅 65 m、長さ 1.2 キロ、碁盤の目のように区画された札幌市の街割りの基軸にもなっている。

その大通公園の西の突き当たりに所在する「札幌市資料館」は、外観を「札幌軟石」で造られ、独特の風格を持つ重厚な建築物である。

明治時代、もともと函館にあった「函館控訴院」に移転問題が起き、函館、札幌、旭川が争奪戦を演じた。しかし、当時の函館控訴院の中川検事長が柿原控訴院長と連名で「札幌は全道を管轄する司法官衙の所在地として永遠にその使命をまっとうするを得べし」という意見書を司法省民事局の山内確三郎局長あてに送った。この意見書が大きくものをいい、控訴院は札幌に移転したという。

大正 11 年、現在の場所で建築が始まりましたが、第一次世界大戦後の経済恐慌と財政緊縮政策の影響による設計変更を余儀なくされ、さらに大正 12 年(1923 年)の関東大震災で予定していた建材が入手不可能となり、当初の計画から大幅な変更を受け、大正 15 年にやっと完成した。

外壁は「札幌軟石」を使用しているが、純粋な石造りではなく、レンガを積みの外側に

軟石を貼り付けた鉄筋コンクリート造と木造の建築物である。

正面から見た建物は左右対称、外壁の窓も縦長の両開き窓と古典的に組み立てられているが、大屋根の破風飾り、ポーチの軒周り、軒石に刻まれた丸み尾帯びた「札幌控訴院」の文字、女神首像、さらに内部の回り階段、階段室のステンドグラスなど随所に「大正モダニズム」の息吹が感じられる建物である。

この建物は、後に「札幌控訴院」から「札幌高等裁判所」となり、昭和48年(1973年)11月3日に札幌市資料館として生まれ変わった。現在は市民の文化の殿堂として親しまれている。また、平成9年(1997年)5月、国の登録有形文化財にも選ばれた歴史的建造物である。

住所 北海道札幌市中央区大通西13丁目

開館時間 午前9時～午後5時 入館無料

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、火曜日が休館)・年末年始

### 3 資料館の展示内容について



#### 札幌の歴史展示室

札幌は、明治初頭に街づくりが始まってから約130年の歳月を経て、現在人口約180万人の大都市に発展した。ここでは札幌の歴史と人々の生活の様子をテーマ別にパネルや写真で紹介している。

札幌市全体の地域を扱った歴史展示室は、札幌市内ではこの資料館だけだが、スペースの都合でかなりコンパクトな展示になっている。展示を観たあとの

疑問・質問は市の職員である「説明員」が答えることになっている。

#### 郷土史相談室

ここでは札幌の歴史や文化について、市民からの相談を受け付けている。また、郷土の歴史に関わる文献資料や写真などの収集もしており、歴史的価値のありそうな写真や文献などがあれば、係員が出かけていき相談に応じることになっている。

### 4 資料館のミニギャラリーについて

石で造られた回り階段を登ったところにある2階の6部屋は、現在「貸しギャラリー」として札幌市民の方々に貸し出されている。この「貸しギャラリー」は市民の生涯学習・芸術文化活動における作品発表の場として広く利用されている。

#### 利用期間

火曜日から日曜日までの6日間を基準とし、休館は資料館に合わせている。

#### 利用時間と料金

午前9時～午後7時までで、利用時間には搬入、搬出など展示に必要なすべての時間が含まれている。利用料金は各部屋の規模によって異なるが、大体一日あたり2,100円～4,900円(6日間の金額12,600円～29,400円)である。

私が訪れたときには、絵画ギャラリーや書の展示、絵画教室の制作発表の場所として使用されており、沢山の市民が訪れていた。

## 5 おおば比呂司記念室について



1階の奥には、札幌出身の漫画家であり画家である、おおば比呂司さんの記念室がある。「おおば比呂司の愛した故郷、札幌で多くの人たちに作品を見てほしい」という、彼と家族の願いが記念室開設に結びついたもので、遺族から寄贈された約300点の原画、飛行機や人形などのコレクション、愛用品などを所蔵されている。約60点余りの常設展示とともに製作の様子を伝えるアトリエ風景を再現展示している。

また、彼のオリジナルグッズの販売も行なわれており、図録、画集の他、絵はがきなど、おおば比呂司のほのぼのとしたタッチが生きる「ここだけのオリジナルグッズ」を販売している。(私も彼の作品が好きで、記念に絵はがきを買って帰った。)

## 6 おわりに

今回の視察を振り返ってみると、札幌市には実に沢山の博物館・資料館・郷土館・美術館があることに気がついた。勿論、札幌市が北海道の道庁所在であることが大きな要因であろうが、それだけではなさそうだ。

札幌の人たちは郷土愛に満ち満ちていて、自分たちの郷土の歴史や残された資料などをとても大切に作る人達なのである。

資料館で説明して頂いた方に「錦帯橋資料館」のお話をしたら、逆に「岩国というところは、故郷に誇りを持っていないのか」と聞き返された。

創建以来約330年の歴史を持つ錦帯橋には、これまでに数多くの資料が残されているし、50年ぶりの架け替えで歴史上初めて構造が解明され、新たな資料が蓄積されている。

これらを公開し、単に錦帯橋を見ただけでは知り得ない様々な情報を提供し、錦帯橋の魅力再認識して頂ける施設「資料館」の必要性は今後ますます強くなっていくであろう。

今回の架け替えで増えた貴重な資料の数々を、広く市民や岩国を訪れる観光客に対して開示してこそ、その価値が上がる。

今残された数多くの資料の中から更に新しい価値を見出すためにも、残された資料を保存しながら公開する場所を確保することが急務である。

故郷を愛する次代の子ども達にとっても....

2005.10.15